



## ふかしんメッセージ④ — 校長から香住のみなさんへ —

令和6年2月26日（月）

### 「37期生 卒業おめでとう！」

いよいよ今週末金曜日、3月1日は「第37回卒業証書授与式」です。

普通科（数理コミュニケーションコースを除く）315名、同じく数理コミュニケーションコース40名、英語科37名の37期生392名のみなさんが晴れの高校卒業を迎えます。

37期生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんの新たなスタートを在校生、先生方と共に心からお祝いします。

37期生のみなさんは、中学3年から高校2年生までの3年間を新型コロナウイルス感染拡大の真っ只中ですごさなければなりません。特に中学3年時の高校受験期は、感染拡大が最も酷い時期であっただけに大変な苦勞をしたことと思います。そんな困難を乗り越えて本校に入学した後も、2年生までは、新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄され、香煌祭や体育祭、修学旅行、予餞会といった大切な学校行事をはじめとして、例年当たり前に行われていた様々なことが中止あるいは縮小、形態の変更を余儀なくされました。3年生になった今年度は、新型コロナウイルスも感染症法上第5類に分類されることになり、4年ぶりに色々なことが漸く平常を取り戻すことができたものの、2年間のブランクは大きく、3年生がリーダーとして後輩たちを引っ張っていく学校行事も、その前例や経験がなく、従来を復活させることには大きな困難を伴ったことと思います。これまでの誰も経験したことがないそんな困難の中においても、37期生のみなさんは一つひとつの学校行事を復活させ、さらに良いものにするをめざし、知恵を出し合い、試行錯誤しながら37期生全員で懸命に取り組んでくれました。その結果「清新」をテーマにした体育祭、「絢藍」をテーマにした香煌祭と見事な学校行事を創り上げてくれました。

前例や経験のないことを一から創り上げることは並大抵のことではありません。そういう意味では、草創期の先輩以外では、これまでの香住の先輩たちでさえ成し得なかった偉大な足跡を残した37期生です。高校受験期から高校2年生まで新型コロナウイルス感染拡大に翻弄され、3年生になってか

らはモデルとなるものもない中、平常を取り戻すために奮闘したみなさんは、みなさんにしかわからない複雑な思いを抱えながら、決して諦めたり投げやりになることなく、高校受験や高校での学校生活をはじめ、すべての面において本当に！！よく頑張ってくれたと思います。37期生のみなさんの頑張りを心から讃えたいと思います。

今年度の初めに、「校長室のドアが開いている時はいつでもどうぞ。」とみなさんに伝えていましたので、今日まで80名以上のみなさんが、色々なことを話しに校長室に来てくれました。話しに来てくれたみなさんの態度や振る舞いは例外なく立派なもので、中にはわざわざ私の都合を訊いて事前にアポイントを取って話しに来てくれた人もあり、そんなみなさんの話から、私もたくさんのことを学ばせてもらいました。感心することも勉強させてもらうことも沢山ありました。

校長室に来てくれた80数名の中に、「大学の推薦入試等の面接試験の練習をしてほしいのですが、御都合いかがですか？」と自らアポイントを取りに来て、一緒に面接練習をした3年生が8人ありました。これらの3年生とは、形式的な面接の所作振る舞い等ではなく、面接で話す内容について徹底的にディスカッションし、お互いに理解を深めた上で面接で話す内容を仕上げていきました。1時間以上のディスカッションと練習を3回もした人や、同じ日に2回（1回目の後に試験場の下見に行った後、6時過ぎに再度登校）した人もいました。

この8人の3年生全員、面接で話そうとしている内容は、良く準備された興味深いもので、一緒にやっている私まで話に引き込まれ、ディスカッションが大いに盛り上がり、私は知的な面白さまでも感じたほどでした。また、この8人の生徒さん全員が、面接試験本番終了後や結果が出た後に（結果が良くても悪くても）、必ず校長室に報告に来てくれました。その時、「面接試験では『自分の言葉』で、『自分が伝えたかったこと』を悔いなくすべて話すことができました。」と報告してくれる表情が全てを物語っていました。こうして一緒に面接練習をした時間やそこでの語らいは、私にとって何物にも代えがたい素晴らしいものでありました。香住丘でこんな生徒さんたちと出会えたことに、しみじみと幸せを感じたことでした。

面接試験は、相手に選んでもらうための場というよりも、自分が学びたい学校の関係者に「自分の思い」を直接語るができる最高のステージなのです。そのステージで自分自身の最高のパフォーマンスを発揮できたことが、私は結果の良し悪し以上に意義あることだと思っています。それを見事

に成し遂げたこうした3年生のみなさんの姿から、あらためて香住のみなさん、37期生のみなさんが持つ素晴らしいポテンシャルを実感し、37期生のみなさんがこれから更に大きく伸びていくことを確信しました。

37期生のみなさんに伝えたいことは、3月1日の卒業証書授与式で詳しく述べたいと思います。式辞の内容は「福岡県教育委員会告辞」と共に37期生のみなさん全員に印刷してお配りしますので、ぜひ！ゆっくり読んでみてください。

あらためて、37期生のみなさん卒業おめでとう！

さあ、力強く新たなステージに「明るく、楽しく、いきいきと。」踏み出していきましょう！

37期生のみなさんの希望に満ちた<sup>さいわい</sup>幸多き人生を祈ります。

先週末土曜日24日と今日26日は、改めて平和について考える日となりました。

今日26日は、1936（昭和11）年2月26日～29日にかけて起きた2・26事件から88年目の日にあたります。みなさんも日本史で学習したように、陸軍内部の皇道派と統制派の対立に端を発したこのクーデター未遂事件をきっかけに、軍部が政治に介入し国家権力を掌握するという日本型の軍部ファシズム体制（軍国主義体制）が成立することになりました。その後の日本は、1937（昭和12）年の盧溝橋事件から中国との全面戦争に突入し、1941（昭和16）年からの太平洋戦争へと戦争一色の時代を経験し、1945（昭和20）年8月15日の敗戦に至ります。

また、一昨日24日（日）は、ロシアによるウクライナ侵略から2年目の日でした。この2年間のウクライナの戦死者は31,000人に達したとの報道もあります。（ロシアの戦死者は7万人以上ではないとも言われています。）子どもや高齢者をはじめとする一般市民の犠牲者もかなりの数に上っています。ウクライナの兵士は正規兵以外にも、祖国をロシアの侵略から守るために立ち上がった一般市民が志願した兵士も数多くいます。ニュース映像で目にした人もいますが、ウクライナの国土の多くの場所がロシアの軍事侵攻によって廃墟と化すまでに破壊し尽くされ、首都キーウをはじめウクライナ全土がミサイル攻撃に晒され、子どもたちの精神面にも計り知れない影響が出ているようです。最近では、ウクライナ側の劣勢が伝えられていますが、いかなる理由があろうとも他国を武力で侵略し、その国民と国土を破壊することが許されていいはずはありません！そこには大義名分や

正義など断じてありません。もし、このままロシアがこの戦争に勝利するようなことがあれば、世界中に武力による現状変更が容認されてしまうことにもなりかねません。いまだ出口が見えないこの戦争ですが、西側諸国の軍事的な支援もさることながら、ウクライナの人々やロシアで動員されて命を落としている若者の理不尽な死をこれ以上増やさないためにも、軍事的援助以上にしかるべき国がウクライナ・ロシア両国の仲介をして戦争終結に導くことが求められているのではないかと考えるのは私だけでしょうか！？

パレスチナ・ガザ地区におけるハマスとイスラエルの戦闘はガザ地区南部にまで拡大し、これもまた出口が見えない混沌とした状況です。私たちは、ややもするとパレスチナ・ガザ地区は遠く離れた中東での出来事だということで、どこか自分たちとは関係がないと捉えている人もいるかもしれませんが。しかし、本校生の中にも御両親がガザ地区の御出身で、おばあさんや親戚の人たちが今もガザ地区におられて安否がわからないという生徒さんがいます。この生徒さんは、少しでもパレスチナ・ガザ地区の惨状を日本の多くの人に知ってもらいたいという思いから、先週自ら街頭に立って、「少しでも早く戦争が終わり、楽しく生活できることを願う。」と人々に訴える活動をしています。この生徒さんの勇気と行動力には心からのリスペクトしかありません。私も直接この生徒さんと話をしましたが、今、パレスチナ・ガザ地区がどんな状況になっているか、日本の人々にもぜひ知ってほしい、校長先生からも全生徒にぜひ伝えてほしいと切実に訴えてくれました。私たち香住の生徒・職員にとってパレスチナ・ガザ地区のことは決して遠いところの他人事ひとごとではないのです。

いかなる理由があろうとも、イデオロギーがどうであろうとも、「戦争」だけは絶対的悪であることを、この時期私たちは改めて肝に銘じなければならないと思います。

校長 深瀬 信也